



わたしたちのごみを減らしましょう！

組成分析の結果からわたしたちが廃棄したごみについて次のことが分かりました。ごみの削減は地球温暖化防止への大きな取り組みの一つです。

☆生ごみはこの3年間で7・8ポイント増加

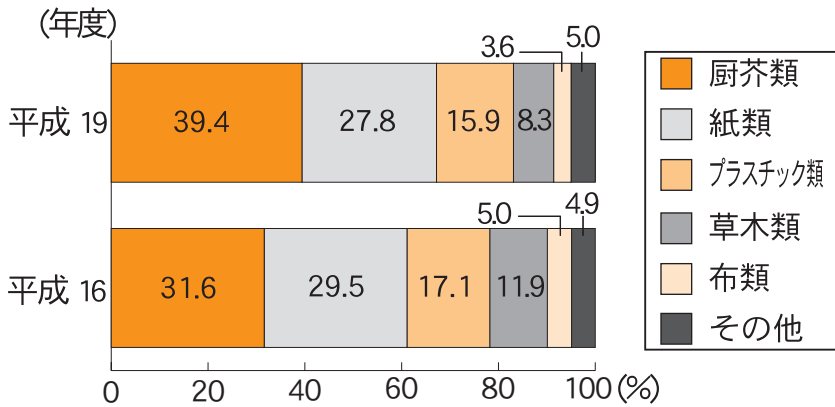
下のグラフは、燃えるごみの組成を前回調査と比較したものです。組成の構成は大きく変わっていませんが、紙類、プラスチック類、草木類は減少傾向にあります。しかし、生ごみはこの3年間で7・8ポイント増加し40%に迫る勢いで、ごみ減量の重要なポイントになります。

☆市民1人が1年間に廃棄する生ごみは87kg

日本の食料自給率は39%に低下し60%以上の食料を輸入しながら、大量に食品を廃棄しています。平成16年度資料によると、国内の食品廃棄物は約1900万トンで、このうち約1000万トンが家庭から廃棄されています。

当市の平成19年度に廃棄された食品(生ごみ)は約6800トン、市民

燃えるごみの組成比較



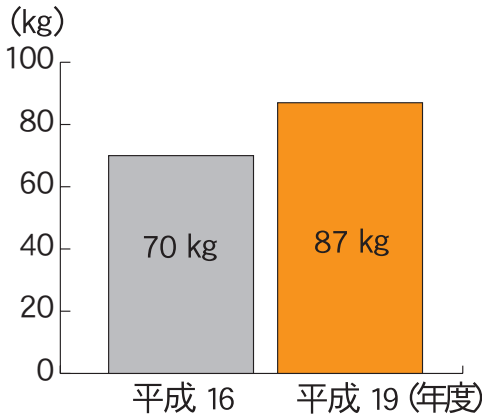
1人当たりに換算すると、年間87kgが廃棄・焼却されています。世界では人口60億人のうち8億5000万人が飢えに苦しん

でおり、日本の食品廃棄物量は約4600万人の食料に匹敵するそうです。まだ十分に食べられるのに、このまま食品を捨て続けることが本当にいいのでしょうか？

☆混入資源物約3000トンが焼却により損失

分別が少し向上し紙類やプラスチック類などの構成比が減少してい

市民1人当たりの年間生ごみ廃棄量



☆ごみ削減は環境を守ること

ごみ処理は収集や焼却、最終処分過程でエネルギーを消費し、大量の二酸化炭素を排出する地球温暖化の要因の一つです。地球温暖化の防止には、ごみ排出量を抑制し、エネルギー使用量を削減する必要があります。そのためには、「ごみを分別すること」、「買い物や調理の工夫をすること」、「食べ残しを減らすこと」、これらを実行することで、ごみは約7000トン削減することができます。ごみ削減は家計への負担を減らしながら、地球環境を守ることに繋がります。また、ごみ削減は、ごみ処理コストを約2億6千万円削減する効果も期待できます。

ますが、燃えるごみの中には約17%の資源物(約3000トン)が混入しています。これを分別し資源として売却すれば約5600万円の収入が見込まれますが、混入資源物は焼却され灰となっています。資源の乏しい日本は、石油をはじめたくさんの資源を輸入に頼っています。使い終わった後も資源を有効に利用するために、分別は重要な手段となります。